

第 13 期(2012 年度)事業報告

I 気候変動問題とエネルギー問題を巡る情勢

2012 年 9 月の北極海の海氷面積は過去最小を記録し、今年 5 月 9 日にはハワイのマウナロアの一日平均 CO2 濃度が 400ppm を超えました。気候変動は急速に進行しています。

2012 年 11 月末からカタールのドーハで開催された COP18/CMP8 は、約束期間を 2020 年までとする京都議定書の第 2 約束期間の開始を決め、2015 年の合意に向けた 2020 年以降のすべての国が参加する枠組みの交渉が本格的に始まりました。このことは国際交渉が新たな段階に入ったことを意味します。しかし、カナダは京都議定書から離脱し、日本、ロシア、ニュージーランドは第 2 約束期間の法的拘束力ある削減目標を拒否しています。

また、2°C 目標に必要な削減量と、提出されている先進国と途上国の抑制・削減目標の削減量には 80-130 億トンのギャップがあり、排出削減目標をいかに引き上げるかが最大の問題です。また、2020 年以降の新たな枠組みでは、国際的な検証制度（計測・報告・検証）、適応策、資金、技術など制度の具体化と確実な実施が課題です。

福島原発事故から 2 年以上が経過しましたが、まったく収束の目処はたっていません。事故原因も含めて正確なことは誰にも分っておらず、最近も、ネズミが配電盤に入り込んだだけで電源喪失したり、地下貯水槽の汚染水漏れなどの問題が起こっています。また、メルトダウンしている原子炉や 4 号機の使用済み燃料プールなどは、今後も長期にわたって冷却を継続せざるを得ません。さらに、除染、膨大な放射性廃棄物の管理・処理、廃炉、住民の健康管理や健康被害への対処、被害補償、崩壊した地域社会の復興など、膨大な費用と時間がかかる問題が残されています。

ところが、昨年末に成立した安倍政権は、「30 年代に原発ゼロを目指す」とした野田政権のエネルギー戦略も、国際公約となっている 2020 年 25%削減目標も、「ゼロベースで見直す」とし、原発輸出に奔走するなど、国民の願いに背を向け、脱原発政策も気候変動対策も大幅に後退させようとしています。

しかし、今年 5 月 29 日には、原子力規制庁が 1 万件近い点検漏れを理由に、もんじゅの運転再開準備禁止を正式決定し、5 月 22 日には、原子力規制庁が日本原電の敦賀原発直下の断層は活断層だとする有識者会合の報告書を了承しました。もんじゅは 1995 年 12 月のナトリウム漏洩事故以来運転を再開できておらず、今回の禁止命令で運転再開が事実上不可能になれば、核燃料サイクルは破綻することになります。

CASA では、昨年 7 月、全原発を即時に稼働停止にしても、2020 年 25%削減は可能で、GDP や失業率に与える影響はほとんど無く、かえって 215 万人程度の雇用増が見込まれるとの、「CASA2020 モデル」の検討結果を発表しましたが、脱原発と 2020 年 25%削減を両立させるエネルギー政策が求められています。

2 第 13 期の各事業について

2.1 情報収集提供事業

2.1.1 活動方針

- ・「CD-ROM 版『地球温暖化』資料集 2011」の普及を進めるとともに、次の資料集に向けた準備を進める。
- ・CASA レター、ホームページなどで、収集および情報の提供をする。

2.1.2 活動内容

- ・「CD-ROM 版『地球温暖化』資料集 2013」を発行しました。2013 年 5 月 21 日までに 204 部を販売しました。
- ・福島原発事故に関連して、CASA レターで特集「再生可能エネルギーの普及に向けて」や大飯原発の再稼働問題を取り上げ、COP18/CMP8 などで通信を発行し、HP にも掲載しました。

2.1.3 評価と課題

- ・「CD-ROM 版『地球温暖化』資料集 2013」については約 2 万通の DM を送り、大学などで新たな購入が増えていますが、まだまだ普及が遅れており、発行部数の 1000 部に販売数を近づけることが課題です。

2.2 調査・研究事業

2.2.1 活動方針

- ・「CASA2020 モデル」で、原発を 2020 年までと即時に原発を全部廃炉とするシナリオで、日本における CO2 排出削減の定量的な解析を進め、2020 年までに 25%削減が可能か、その経済的影響などについて検討し、市民の立場で具体的な提案を準備する。
- ・気候変動問題、エネルギー問題、原発問題などについての研究会や学習会の開催、意見や提言の発表などを行う。

2.2.2 活動内容

- ・「CASA2020 モデル」により、全原発を即時に廃炉にするシナリオで、省エネ対策などによるエネルギー需要量の削減と、エネルギーシフト（脱原発・脱化石燃料、自然エネルギーの普及）により、電力需要を賄い、2020 年に CO2 排出量を 1990 年比で 25%削減することが可能かを検討し、全原発を即時に廃炉と 2020 年 25%削減の両立は可能で、経済への悪影響もほとんどなく、むしろ経済波及効果が期待されるとの結果になりました。これを、「原発再稼働なしに 25%削減は可能～「CASA2020 モデル (Ver. 4)」の試算結果～」として発表しました。また、地球環境大学で取り上げ、また国会でのシンポジウムなどで発表しました。報告書は、国会議員、経産省、環境省などの省庁、マスコミ、市民団体などに送付しました。
- ・共同通信が今年の正月特集で、「CASA2020 モデル」を使った「2030 年脱原発社会」と題する大きな記事を配信してくれ、全国の 30 を超える地方紙に掲載されました。共同通信が「CASA2020 モデル」を取り上げた理由は、「市民団体のシナリオはいろいろあるが、きちんとしたモデル分析をしたものは少なく、特にボトムアップとマクロ経済モデルを統合したモデルというのは、非常に興味深く、CASA モデルを特別に取り上げる価値はある」とのことです。
- ・「原発再稼働なしに 25%削減は可能」を日本語版と英語版の冊子にまとめ、ドーハで行われた COP18/CMP8 で配布しました。また、冊子「「全原発の即時廃止と CO₂25%削減は可能！」を 2 万部作成し、配布しました。この冊子は「わかりやすい」、「こうした提言が待たれていた」と好評です。
- ・気候変動、エネルギー問題については、別表 1 のとおり声明や共同声明、パブリックコメントへの意見提出を行いました。

2.2.3 評価と課題

- ・「CASA2020 モデル」を用いて、全原発の即時廃止と 25%削減が両立可能なことを定量的に証明できたことは大きな成果です。また、市民向けの冊子を作成し、大量に

普及できたことも大きな成果です。

- ・25%目標放棄の動きに対し、脱原発と25%削減の両立できるとの代替案を、市民の立場から提案してゆくとともに、2020年からの新たな国際枠組みの交渉に向けて、2030年の日本における温室効果ガスの削減可能性についての検討を進めることが重要な活動になっています。

2.3 国際交流事業

2.3.1 活動方針

- ・気候変動問題の国際会議（AWG, COP18/CMP8 など）への代表を派遣し、気候行動ネットワーク（CAN）と連携して活動する。
- ・国際交渉の状況などについて、市民に対して情報を発信する。

2.3.2 活動内容

- ・12年6月（ボン）、8-9月（バンコク）の特別作業部会（AWG）、11月末からカタールのドーハで開催されたCOP18/CMP8に代表を派遣し、CANと連携してロビー活動をしました。
- ・COP18/CMP8で、CASAのポジションペーパー「ギャップの解消を！」（日本語と英語）、及び「原発再稼働なしに25%削減は可能」（日本語と英語）を配布しました。
- ・特別作業部会（AWG）やCOP18/CMP8会期中に6回の「通信」を発行しました。
- ・昨年7月2日に、議員会館においてCANJ（気候行動ネットワーク・ジャパン）で『『選択肢』に関する合同イベント』、8月6日には大阪で政府と選択肢についての意見交換を関西のNGOが連携して行いました。
また今年2月3日には、温暖化防止ネットワーク関西でCOP18報告会を開催しました。

2.3.3 評価と課題

- ・継続して国際交渉に参加し、CANや日本のNGOと協力して、ロビー活動を展開することができました。
- ・日本政府が京都議定書の法的拘束力ある削減目標を拒否し、2020年25%削減目標を放棄しようとしている日本政府に、第2約束期間の削減目標を受け入れさせ、2020年25%削減目標を堅持させることが重要な課題です。

2.4 普及・啓発事業

2.4.1 活動方針

- ・第20期地球環境大学、シンポジウムや学習会などを開催する。
- ・「CD-ROM版『地球温暖化』資料集2011」やオール電化パンフレットの普及、地球温暖化防止推進委員の研修事業への講師の派遣や親子環境教室の開催、省エネチャレンジ、省エネラベルの活動を進める。

2.4.2 活動内容

- ・第20期地球環境大学を「福島原発事故と私たちの未来」のテーマで開講しました。
- ・2011年夏の省エネチャレンジには、いずみ、パルコープ、自然派ピュア大阪から52名が、冬はおおさかパルコープから10名が参加しました。
- ・夏と冬に省エネラベルのキャンペーンに取り組み、夏は92店舗、冬は78店舗のモニタリング活動を行いました。省エネ意識の高まり、エコポイントの実施などもありラベル添付率は向上しています。

- ・地球温暖化防止推進委員の研修事業への講師の派遣は、国の予算が無くなったことから実施できませんでした。

2.4.3 評価と課題

- ・第20期地球環境大学は、政府事故調の技術顧問や放射線防護学の専門家などを招き開催することができました。しかし、地球環境大学は内容が難しいとか、質問がしにくいとの意見も多く、わかりやすく、質問もし易くする工夫が必要です。
- ・省エネチャレンジ、省エネラベルの活動は、とりわけ原発事故による「節電」のために必要な活動で、継続した取り組みが必要になっています。
- ・省エネラベル実行委員会について、市民が継続して取り組んでいるのは大阪だけであり、実行委員会には大阪府、大阪市や堺市などの行政や大阪府生協連なども参加しており、行政との協力関係を築く上でも、引き続き重視する必要があります。

2.5 広告宣伝事業

2.5.1 活動方針

- ・CASA レターを年4回確実に発行するとともに、ホームページを拡充し、アクセス数の増加を目指します。CASA レターの特集として「自然エネルギー」を取り上げます。

2.5.2 活動内容

- ・CASA レターは77～80号まで発行し、年4回の発行は確保できました。
- ・HPへのアクセス数は別表2のとおり、前年比100%（1日平均2908件）になっています。
- ・E-mail ニュースは50回発行しました（12年6月1日～13年5月23日まで）。

2.5.3 評価と課題

- ・HPのアクセス数は、昨年6月～10月までは前年比で減少しましたが、11月以降は増加しています。訪れたのべユーザー数(Visits)は前年比並みで、昨年のVisitsが前年比58%であったことからすれば、ユーザーは限られる傾向にあり、より分かり易いHPが課題です。HPは重要な広報ツールであることから、より分かりやすく、最新の情報を掲載するよう引き続き取り組みを体制をとりたいと思います。
- ・E-mail ニュースは不定期で発行し、行事の案内中心の通信になっていますが、今後は内容の充実を図りたいと思います。

2.6 組織活動

2.6.1 活動方針

- ・会員の拡大、事業活動の強化を図る。会員の漸減傾向を改善するために、全会員に企画などの案内が届くようにする。また、参加型の企画も行うことを検討する。
- ・今後も財政基盤の安定化に向けて引き続き取組を進める。
- ・認定NPO法人の申請手続を進め、今期中の認定を目指す。
- ・事業の整理、各事業の運営体制の見直し、事務局スタッフの待遇改善などを進め、将来を見据えた事務局体制の確立に向けた検討と準備を進める。
- ・ボランティアの参加を重視し、ボランティアコーディネート体制を整える。

2.6.2 活動内容

- ・現在、認定NPO法人の申請手続中ですが、これまでの理事の登記手続などに瑕疵があり、これを是正する手続に時間がかかり、昨年度中の認定は得られませんでした。
- ・会員数は、今期は入会が10名、退会が25名でした。本年3月31日現在の会員数は352

名です（別表3）。

- ・支部活動は、東京支部が毎月例会を開催し、毎回活発な議論が行われています。
 - ・昨年8月に、国際交渉担当の事務局として専従スタッフを採用しました。
 - ・今期も、自然エネルギー市民の会（PARE）、大阪府民環境会議（OPEN）などと連携した活動を進めました。国際会議では、世界のNGOのネットワークである気候行動ネットワーク（CAN）と連携して活動しています。また、大阪省エネラベル実行委員会や温暖化防止ネットワーク関西の事務局として活動しました。
- とりわけ、PAREは、広島と福島で市民共同太陽光発電事業を進めており、CASAとしてもこれに全面的に協力しています。

2.6.3 評価と課題

- ・会員数は今年も漸減傾向です。会員減の多くは2年以上の会費の滞納が理由ですが、会員の高齢化もあり、また転居などで連絡がとれなくなるなど、特別の取り組みをしなければ会員減は避けられません。わかりやすく、参加しやすい企画などの取り組みを通じて、会員拡大に重点的に取り組む必要があります。
- ・メールを使わない会員にも案内を届ける努力をしました。参加型の企画については、今期は地球環境大学をできるだけ分かり易く、また参加型の企画にしたいと思っています。
- ・支部活動については、東京支部とは東京でのシンポジウムなどで共同をしましたが、鳥取支部とは共同の企画はできませんでした。
- ・事業の整理、各事業の運営体制の見直し、事務局スタッフの待遇改善などを進めるとともに、ボランティアの参加を重視し、ボランティアコーディネート体制を整える努力を引き続き行います。

別表1 声明・共同声明・パブリックコメントへの意見提出

2013年

- | | |
|-------|--|
| 4月30日 | 岸田文雄外務大臣・茂木敏充経済産業大臣・石原伸晃環境大臣へ「気候変動問題に対する国際会議の政府代表団への参加についての要請書」（CAN-J） |
| 3月21日 | 【共同声明】石炭火力発電の推進に反対する共同声明 |
| 3月19日 | 「再生可能エネルギー固定価格買取制度における平成25年度新規参入者向け調達価格等の改正について」へのパブリックコメントの論点 |
| 3月10日 | 【パンフレット】「全原発の即時廃止とCO ₂ 25%削減は可能」 |

2012年

- | | |
|--------|--|
| 12月8日 | 【COP18・CMP8 CASA 声明】2℃目標とのギャップの解消を！ |
| 11月26日 | 【CASA ポジションペーパー】ギャップの解消を！（日本語版と英語版） |
| 9月20日 | 【声明】「革新的エネルギー・環境戦略」は再検討するしかない！ |
| 7月20日 | 「エネルギー・環境に関する選択肢（案）」に対する意見提出を！ |
| 7月20日 | 「エネルギー・環境に関する選択肢」に対する意見 |
| 7月 | 【CASA 提言】原発全廃でも2020年25%削減可能～「CASAモデル（Ver.4）」の試算結果～ |
| 6月12日 | 大飯3、4号機の再稼働の必要は無い～関電管内のピーク電力と大飯原発再稼働についての検討～ |
| 6月1日 | 「再生可能エネルギー特別措置法の施行に向けた主要論点」に対する意見 |

別表2 HPへのアクセス数

		1日平均						月合計			
		Hits		Files		Visits					
		数	前年比	数	前年比	数	前年比	Hits	Files	Visits	Kbytes
2013年	5月	2,405	42%	1,700	41%	204	100%	33,677	23,808	2,869	9,184,402
	4月	3,165	79%	2,206	87%	228	136%	94,972	66,206	6,852	21,589,014
	3月	2,940	126%	1,765	94%	205	130%	91,170	54,727	6,363	18,427,202
	2月	3,359	142%	2,368	121%	207	134%	94,068	66,314	5,818	20,665,224
	1月	2,978	129%	2,082	115%	214	124%	92,318	64,561	6,645	22,724,161
2012年	12月	2,499	82%	1,700	71%	184	106%	77,477	52,721	5,717	20,773,912
	11月	2,741	101%	1,833	85%	195	116%	82,238	55,002	5,870	14,809,486
	10月	2,397	92%	1,643	84%	194	105%	74,321	50,959	6,026	11,491,882
	9月	3,338	125%	1,772	84%	169	93%	100,169	53,179	5,086	10,050,116
	8月	2,671	85%	1,878	77%	153	66%	82,829	58,238	4,744	10,816,531
	7月	2,876	86%	2,109	84%	167	71%	89,178	65,387	5,194	12,061,905
	6月	3,530	85%	2,494	80%	173	64%	105,923	74,834	5,202	10,582,849
平均		2,908	107%	1,963	81%	191	100%	84,862	57,161	5,532	15,264,724

Hits：全アクセス数

Files：実際に送信を行ったファイル数、Hitsが要求数とすればFilesは実際にサーバーがデータを送信した数。

Visits：サイトを訪問したユーザーIP数、同一IPアドレスからのリクエストが30分以内にあった場合などはカウントされません。

KBytes：サイトが送信したデータの総量

別表3 会員の動向

(会員数)

	期首	13. 3. 31 現在	増減
個人正会員	313	298	△15
個人賛助会員	12	11	△1
学生会員	4	2	△2
団体正会員	42	40	△2
団体賛助会員	2	1	△1
合計	373	352	△21

(入会, 脱会)

	入会	退会	増減
個人正会員	10	25	△15
個人賛助会員		1	△1
学生会員		2	△2
団体正会員		2	△2
団体賛助会員		1	△1
合計	10	31	△21

会費滞納による脱会：個人正会員 16、団体正会員 1 合計 17